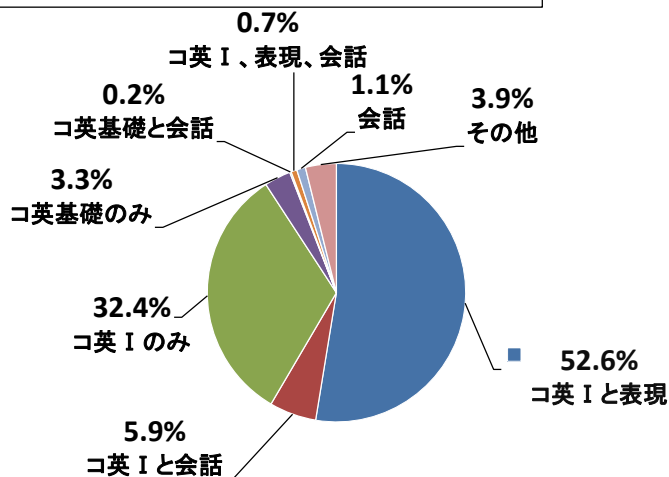


問7 『新課程』編成：科目の組合せ(1年次)



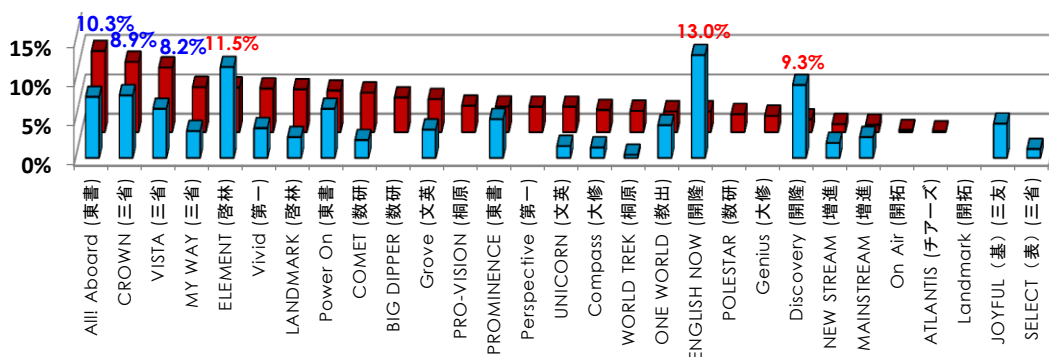
組合せ	人数	%
コミュ英 I と英語表現	5720	52.6%
コミュ英 I と英語会話	640	5.9%
コミュ英 I	3520	32.4%
コミュ英基礎	360	3.3%
コミュ英基礎と英語会話	20	0.2%
コミュ英 I と英語表現と英語会話	80	0.7%
英語会話	120	1.1%
その他	420	3.9%

問8 「編成の理由(主なもの)」

- 現行の教育課程からスムーズな移行にするため
- 基本的な英語力をつけるため
- 学校の実情に合わせるため
- 新学習指導要領に則って

※編成の理由として、ほとんどの学校が「現行の教育課程からの移行がスムーズに行いやすい」ことを理由にあげている。また「英語の基礎力をつけるためにはどのような教育課程にした方が良いか等を考えて編成した」との回答が寄せられている。

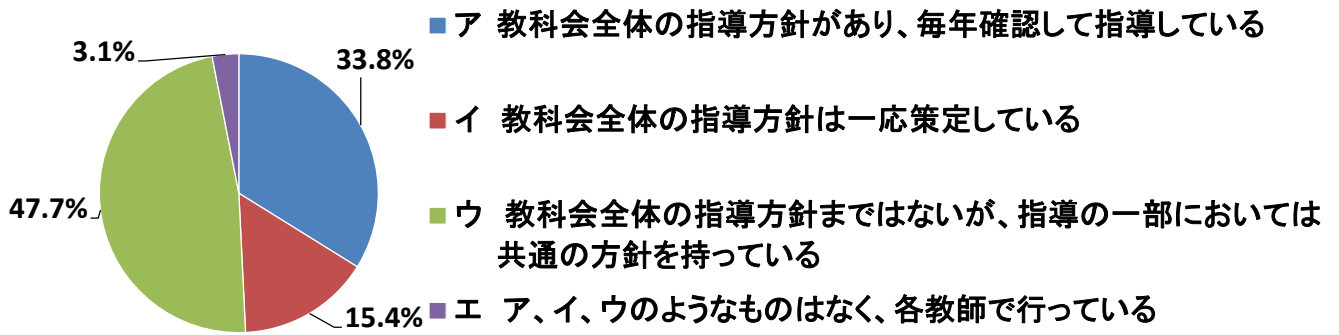
○ 教科書採択需要 ■ 県内需要率(対県内需要数) ■ 全国需要率(対全国需要数)



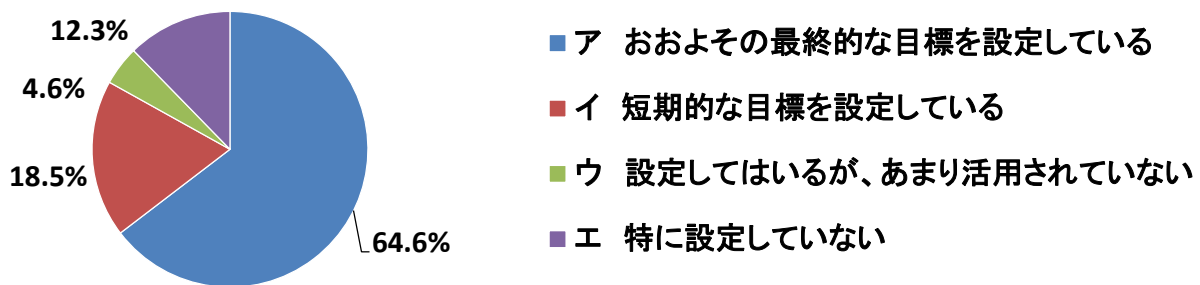
コミュニケーション英語 I	全国需要数	全国需要率	県内需要数	県内需要率
All Aboard ! 東書	125,441	10.3%	820	7.8%
CROWN English 三省	108,527	8.9%	840	7.9%
VISTA English 三省	99,711	8.2%	660	6.2%
MY WAY English 三省	69,404	5.7%	360	3.4%
ELEMENT 啓林	68,936	5.6%	1,220	11.5%
Vivid English 第一	67,269	5.5%	400	3.8%
LANDMARK 啓林	66,027	5.4%	280	2.6%
Power On 東書	64,085	5.2%	660	6.2%
COMET 数研	60,728	5.0%	240	2.3%
BIG DIPPER 数研	53,372	4.4%		
Grove English 文英	50,855	4.2%	380	3.6%
PRO-VISION 桐原	40,655	3.3%		
PROMINENCE 東書	39,147	3.2%	520	4.9%
Perspective English Communication I 第一	39,018	3.2%		
UNICORN English Communication I 文英	39,013	3.2%	160	1.5%
Compass English Communication I 大修	33,999	2.8%	140	1.3%
WORLD TREK English Communication I 桐原	32,679	2.7%	40	0.4%
New ONE WORLD Communication I 教出	31,725	2.6%	440	4.2%
ENGLISH NOW I 開隆	31,670	2.6%	1,380	13.0%
POLESTAR English Communication I 数研	27,476	2.3%		
Genius English Communication I 大修	24,965	2.0%		
Discovery English I 開隆	19,355	1.6%	980	9.3%
NEW STREAM English Communication I 増進	11,982	1.0%	200	1.9%
MAINSTREAM English Communication I 増進	10,834	0.9%	280	2.6%
On Air English Communication I 開拓	2,891	0.2%		
ATLANTIS English Communication I チアーズ	909	0.1%		
Landmark English Communication I 開拓			460	4.3%
JOYFUL English コミュニケーション英語基礎 三友			460	4.3%
SELECT English Conversation 三省			120	1.1%

※1年次に「英会話」、2年次で「コミュニケーション英語 I」を履修

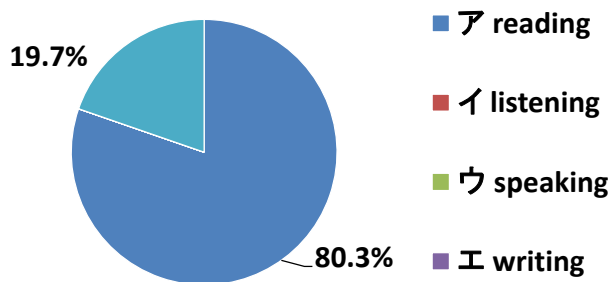
問9 「英語科指導方針があるか」



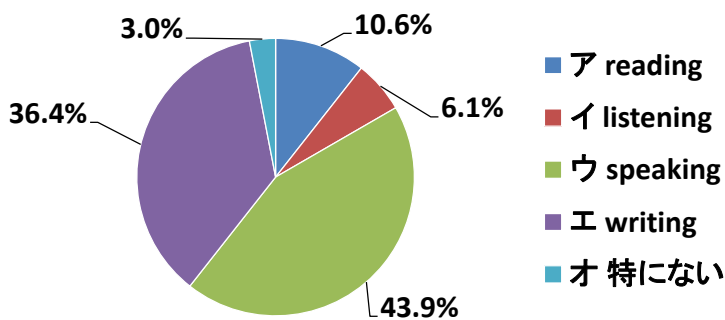
問10 「3年間の見通しがある指導をしているか」



問11 「最も時間をかけて指導する技能は」



問12 「最も指導に困難さを伴う技能は」



【困難な理由】

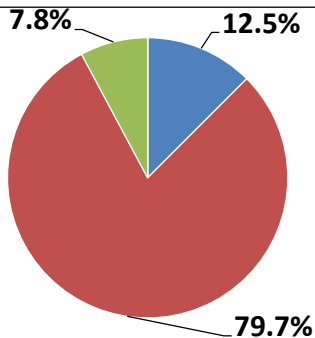
○ speaking と writing を併せて約80%が、最も指導が困難であると回答している。

その理由として、

● speaking では、「有効な指導方法を持っておらず、時間的な制約もあって、個々の生徒に効果的なフィードバックが十分できない。」「生徒のモチベーションを上げることが難しい。」「基礎力不足で、単語を読めなかったり、人前で英語を話したがる。」「などが挙げられている。

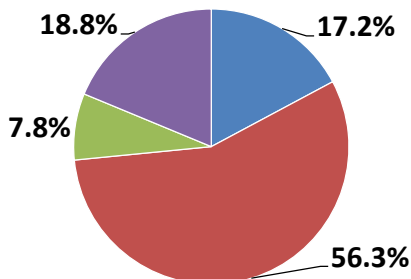
● writing では、圧倒的に「基礎的な文法力や語彙力の不足」が挙げられている。

問13 「4技能を意識した授業設計」



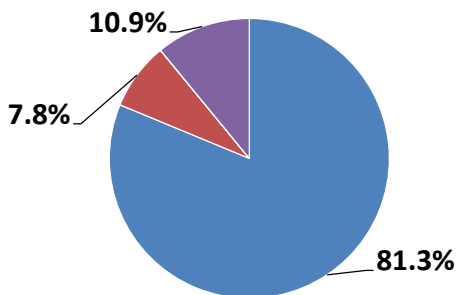
- ア 常に立てている
- イ 授業内容によっては立てている
- ウ あまり意識して立てていない
- エ どのように立てればよいかわからない

問14 「新課程での指導準備は」



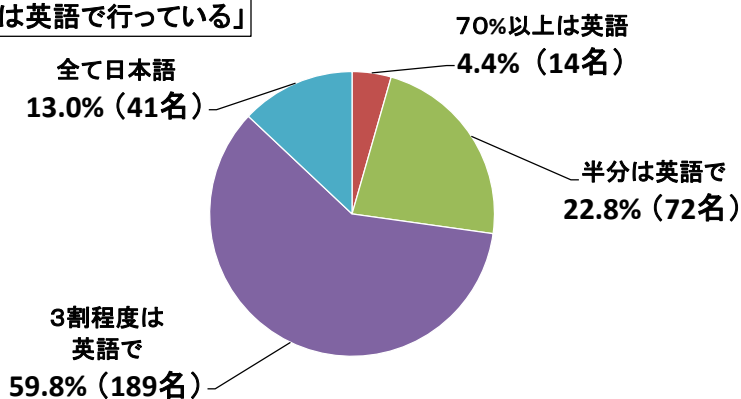
- ア 教科会全体で進めている
- イ 一部進めている
- ウ 誰も進めていない
- エ どのように進めればよいかわからない

問15 「4技能を意識した授業の必要性は」



- ア 必要がある
- イ 既に取り組んでいる
- ウ 必要ない
- エ 特に考えていない

問16 「授業は英語で行っている」



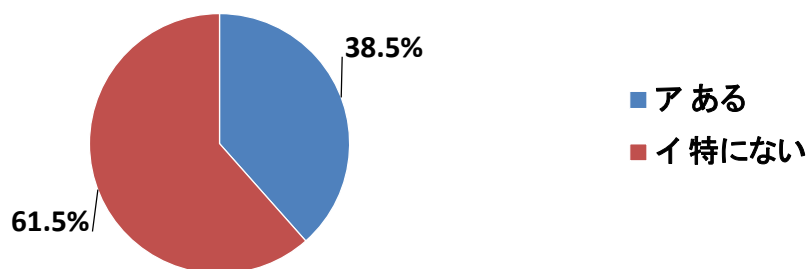
問17 「英語で授業をするとき、気を付けていること」

○ 生徒が理解しやすいスピードと難易度で、一方的な発話に終わらないようにする。平易な語彙を使い、生徒がわからなければパラフレーズしたり繰り返したりする。(※主な回答から)

問18 「『英語の授業は英語で行う』の意図している授業とは、どのような授業であると考えるか」

- 積極的にコミュニケーションをとる場面を数多く与えながら、4技能のスキルを効率よく伸ばす授業。
- 生徒に英語を使わせ、教師は英語で長々と説明するというよりも、英語で指示したり支援したりする授業。
- 使える英語を身に付けさせる授業。(※主な回答から)

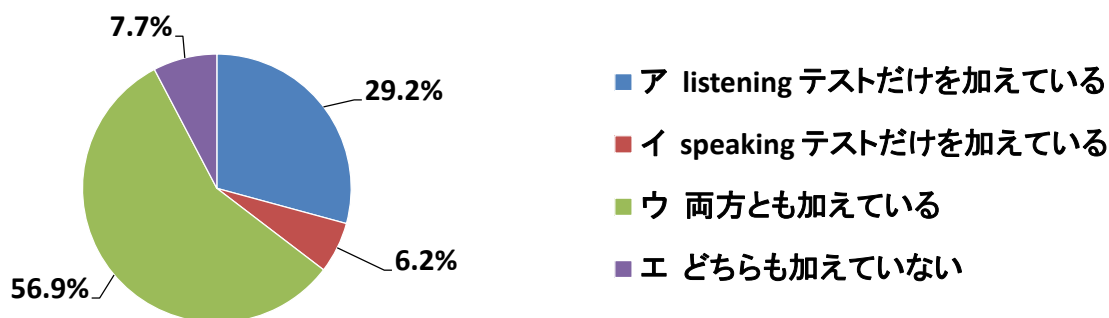
問19 「授業改善に支障となること」(「英語で授業」を除く)



問19の理由(主なもの)

- 英語科職員の共通理解(を求めにくい)。
- 日常的に使っていない言語において、文法などの知識なしで高いレベルまで引き上げることはできないと考える。
- 生徒の基礎力不足。
- 求められていることと大学入試の2次試験までをふまえた最終的な受験指導の内容とが直接結びつき難い。新学習指導要領が求めるとおりの授業を実践できたとしても、限られた授業数と年数で大学入試に対応できる力を養成できるのか心配である。
- 生徒の中には、言語能力の低い生徒もいる。こうした生徒に理解してもらうには、日本語による説明が多くなることもやむをえないと思う。徐々に学力をつけるとともに達成感を身につけて、学習意欲を高めてから、英語の使用を増やしていくというやり方が効率的ではないかと思う。
- 商業科は一斉授業が大半であり、生徒の理解度をきめ細かく見極めるという点では、多少の困難を伴うのではないか。
- 新課程のすべての科目(2・3年次も含めて)の教科書が手元にないため、3年間を見通した計画が立てられない。

問20 ListeningやSpeakingの評価について



問21 「文科省配布のDVDを視聴したか」

